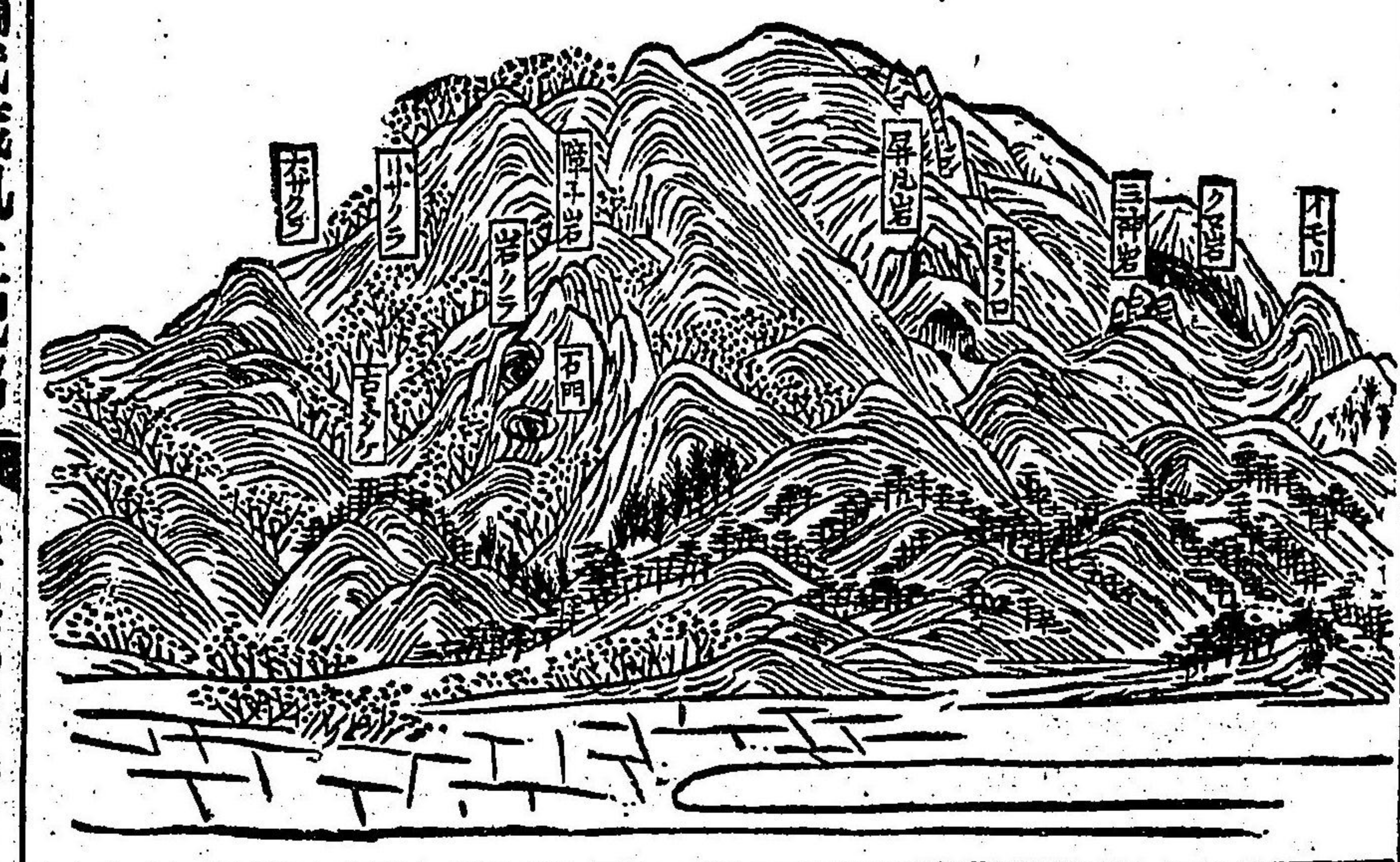


一御紋附御茶碗一寸五分徑... 一太刀七寸九分... 唐銅ノ鑄物ナリ... 越前ノ神主ナリ... 未カハ神主ナリ... 寸ノ祭速玉命ニ坐ナリ... 社ノ内ニ大圓鏡ヲ持テ...

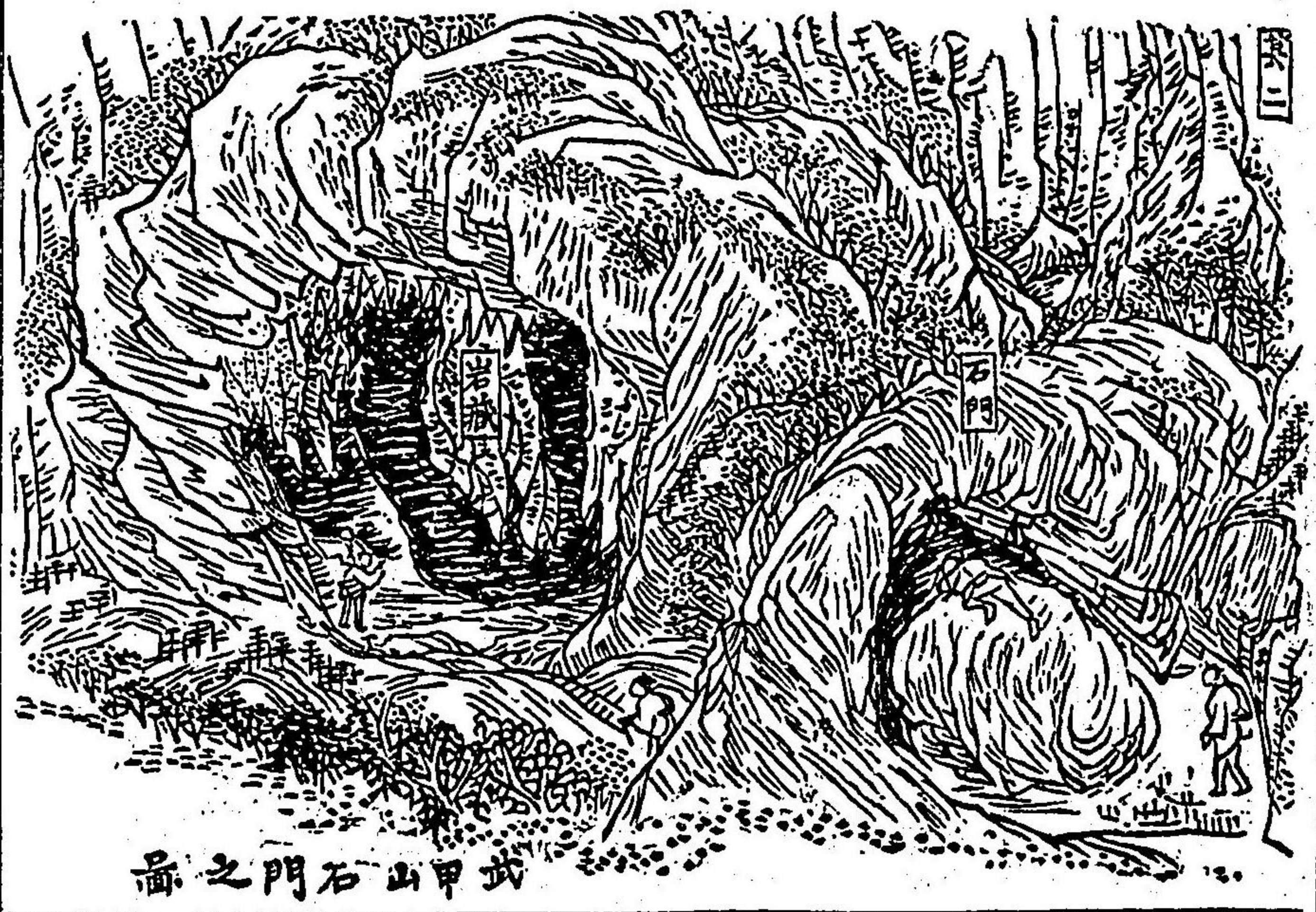
武甲山之圖



武甲山ノ内ニ武甲山ノ内ニ... 飯盛山ノ内ニ飯盛山ノ内ニ... 寺廢跡ハ本ノ東ノ別當ナルモ... 駒形社ヲ以テ大通兩權現ノ末社トシテ...



龍ノ枕ノ圖



武甲山石門之圖

三町ア程南ノ方ヘ登リハ雜木園メリ此コ
 所ニ少シノ平地ニ石垣ヲ構ヘ天王ノ小
 祠アリ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 地ニ長ノ方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 登リ愛宕社ノ小祠アリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 茲ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 是ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 根ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 ハ誰カノ城址アリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 九ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 劍橋ノ小屋ニ居シモ此ノ所ニ
 ノハヤトニ思ハレタリ
 山ノ老杜ノ方ニ立リ同シト云ルカト
 麓ノ久保村ト界ナリ
 宮ノ境ニ深澤山トコシモ右ニ敷地山
 村ノ北ニ西寄ナリ
 田ノ北ニ西寄ナリ
 境ノ北ニ西寄ナリ
 界ノ北ニ西寄ナリ
 村ノ北ニ西寄ナリ
 〇登坂村ノ西南ニ
 〇鬼澤村ノ西
 〇城谷澤村ノ西
 〇妻阪村ノ北
 〇猿阪村ノ北

彌陀山念佛寺ト祖圓俗性ハ由イッ頃ノ御忌
 長七郎ノ許コトアリ
 北ニ開山正和ノ化スルハ阿彌陀山念佛
 ノ塔アリ正和ノ刻スルハ阿彌陀山念佛
 寺ノ光西塔右ハ元和八年四月十五日伊
 奈半十郎富田大右衛門左衛門共佛井
 上人雅樂介富田大右衛門高野七尺餘又寺
 人々也ト勒セリ塔ノ高三尺餘又寺
 少ノ平川ト觀音ノ塔ノ高三尺餘又寺
 佛及ヒ石塔アリ觀音ノ塔ノ高三尺餘又寺
 〇小御嶽武甲山ノ北ニ主川茂隔
 荆棘ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 頂上ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 岩石ニ至ル方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 〇巽ノ方ナリ機ノ前ニ記セシ大机ノ
 堀ノ切三ヶ所ハカモチ永田外記ト云
 人ノ切三ヶ所ハカモチ永田外記ト云
 野トモノ居セシト云
 小御嶽東ノ方ニ深澤ト云
 登ルコト東ノ方ニ深澤ト云
 云ルコト東ノ方ニ深澤ト云

龍稔寺末境内除地二畝十二本尊正觀音ヲ
安ス開山善庵眞覺天正元年二月廿九日寂ス
神明稻荷白山合社○地福院峯福山八
ス本山修驗大宮郷今宮坊配下ナリ本
尊不動ヲ安ス除地四畝二十歩アリ

長壽者前村民忠兵衛カ母カメ文政癸未ニ百二歳ナリ夫忠八ナルモノ今ヨリ卅五年
化三年ニ領主阿部某ヨリ其壽ヲ稱美○長壽者村民與三郎カ曾祖父長台衛門文政
シテ生年々々米三俵ヲマウツナリ○長壽者村民與三郎カ曾祖父長台衛門文政
テ幼年ノ間ハ極貧窮ナリシモ長シク後平居心ヲ用ヒ晝夜トナシ精力ヲシクシ農
業ヲ稼シカハ田地ナトモ漸増加シ既ニ里人ノ鑑トモナルヘキモノトテ文化十三
年ニ領主阿部某ノ陣屋ニ招カレ稱美ノ○舊家者里正四郎左衛門加藤ヲ氏トセリ
上米三俵ツヽシ生年々々賜ハルト云○舊家者里正四郎左衛門加藤ヲ氏トセリ
年貢税ノ文書ヲ藏ス家ニ傳フル槍劔ノ傳書ニハ加藤ヲ轉シテ勝刀ト書セリ又北
條氏直ノ感狀アレトモアテ所キレテナシ恐ラシハ他家ヨリ求メモノナルヘシ

横瀬之郷卯歳之御成ケ之事 合百六拾五貫八百七十壹文者定納但此内壹貫貳百
文ハ山手ニ大官ヨリ出る也右永樂錢ニ而請取納候者也仍如件

天正廿年壬辰四月廿九日 三輪忠左衛門花押 駒井新兵衛花押 奥采女正花押
さゆいり衆加藤雅樂之助也 同同名將監也 同阿佐美全助也 其外御百姓中

去十七於甲州北谷表敵一人討捕候高名之至感悅候彌可走廻者也仍知件
八月廿二日花押 ○舊家者村民孫左衛門氏ヲ佐野トス先祖ヲ集人

態以使申候如先日申候松山普請當月不致而者秋末者敵方遺意も可有之候間不圖
存立候三日之内當地と可打立候隨分堅固に可致候條可御心易候并高松筋へ故動

之事藤田色々令懇望候間一動申付可打散存候御人數之事御大儀候共御用意肝要
候就中去月下旬伊豆奥號御藏島小島へ付筑紫薩摩船流寄候破損無紛候間荷物爲
取之前後無之様に候間分國中大社御修理之方に過半加之候六所えも致寄進候以
日記岩本隼人申付進一神主本願に被相談彼荷物とは別而可然人體に被預置一方
之御修理に罷成候様に可被仰付候次に雖輕微候唐物候間唐紙百枚竹布五端進之
恐々謹言 七月廿一日氏康花押 謹上眞月齋○舊家者詞官守屋兵庫カ藏スル
如前々御陣へ馬壹疋無之沙汰可走廻旨被仰出者也仍如件

子卯月十一日 桑原能登守奉之 横瀬之内 兵部太夫也

壹疋馬 前々猪俣仕候陣夫にも候間御物に被成候馬迄と太夫ひかせ可參候挨拶
可被仰付者也仍如件 丑九月廿八日 横瀬兵部太夫

蘆ヶ久保村
蘆ヶ久保村ハ郡ノ東寄ニアリ武光庄ニ屬ス江戸ヨリ廿里ノ行程ナリ此村モト横瀬
村ノ内ナリシカ享保十八年分郷シテ一村トナル村名ノ起リヲ尋ルニ小丸峠ノ下澤
間窪キ所ニヨリテ往古ハ蘆ナト多ク生茂リシ村ナレハカクヨヘリ四境東ハ阪元村
小丸峠ノ峰界西ハ横瀬村谷間ニツ、キ南ハ上名栗村峰界北ハ大野村峰界東西二里

半南北二里秩父街道ニテ馬繼ノ村ナリ東ハ小丸峠ヲ越ヘ南川村ヘ三里西ハ横瀬村
 マテ一里半ノ所ヲツケリ路幅三尺ヨリ六尺ニ及ヘリ民家百廿軒街道ノ左右ニ軒ヲ
 ナラヘ或ハ谷間或ハ山腹ニアリ土性ハ小石交リノ眞土ニテモトヨリ山多ク嶮岨ニ
 テ畑ハ嵯峨ニヨリテ水田ハ僅計リ谷間ニアリ用水ハ谷水ヲ引ケリマ、早損ヲ患フ
 土地宜シカラス諸作實登リ悪ク年穀半歳ヲ支フト云村民農間ノ稼第一ニ炭焼ヲシ
 楮皮ヲ剝キ春ハ獨活蕨ヲ採リテ大宮小川ノ市ニ鬻キ女ハ絹麻布ヲ織レリ土産ハ
 即チ楮獨活蕨等ナリ此村分郷已前ノ事ハ横瀬村ニ託シテ茲ニ畧セリ享保十九年ニ
 御料所トナリ御代官田中休藏カ支配所トナリソレヨリ屢遷替シ今ハ川崎平右衛門
 カ支配スル所ナリ 高札場畑ノ中程大 小名 赤屋 大畑 中道 殿ヶ谷戸
 小丸峠 東ノ方南川村界ノ峠ナリコトヲ難所ナリ秩父街道ノ一餘道幅三
 川 土人コレヲ逆川ト云水源ハ東ノ方小丸峠ノ下ヨリ湧出ル村内逆流シテ西
 婦岩 蘆ヶ久保川ノ岸ニ並ヒ立テリ
 白鬘社 神體東帯セル木坐像長六寸許村ノ鎮守ナリ例祭七月廿五日村民持
 茂林寺 神移山ト號ス曹洞宗入間郡越生郷龍穩寺末ナリ本尊彌陀ヲ
 苑國村和尙寛文八年九月廿五日寂ス境内年貢地一段 ○觀音堂 村民持
 終

新編武藏風土記稿卷之二百五十五目錄

秩父郡卷之十

大宮郷

新編武藏風土記稿卷之二百五十五

秩父郡之十

大宮郷

大宮郷ハ郡ノ中央ヨリ少シク東南ニヨレリ武光庄ニ屬ス江戸ヘノ行程板橋通り廿八里山通り廿二里郷名ノ起リハ延喜式ニノスル知々父神社此地ニアリテ大宮明神ト稱セシヨリ大宮郷トハ唱ヘシナリ阿部鏡丸正權カ領分ニテ陣屋ヲ立置キ郡中十六村八千九百餘石ノ所置テ沙汰シ郡中ノ便宜ヲナセリ市町ナトモ立テ殊ニ繁榮ノ地ナレハ村名ヲ唱ヘス郷名ヲ稱セリコノ郷ハ土貢二千三百石ニ餘リ土地モ廣ク民戸モ多クレハ十組ニ分テ里正モ十人アリ古ヨリ御料所ニテ正保ノ頃ハ伊奈半十郎忠常支配所ナリ寛永十二年五月富田半兵衛ヲ始メ十五人ニテ檢地セリ寛文三年阿部豊後守忠秋ニ賜ハリシヨリ今ニ其子孫阿部某カ領スル所ナリ四境東ハ山田村横瀬村ニ隣リ西ハ荒川ヲ限リ對岸ハ久那村別所村ナリ南ハ上下影森村ニ接シ北ハ大野原村ニツ、キ土地平坦郡中スヘテ山多シトイヘモ此郷ニ於テハ山ヲハナル、コト頗ル遠ク田野ウチヒラケテ東西廿二町程南北一里六町其中ニ大宮町ト唱ヘ民家軒ヲナラヘテ市立アル所凡九町半餘路幅凡六間坤ヨリ長ニ達スコ、ニツラナル

家數二百五十此外各所ニ散在スルモノ三百九十軒又妙見社領六十軒其餘東ヨリニ
穢多廿一戸鉦打三戸非人一字アリ土性ハ眞土野土或ハ砂交リナリ陸田多ク水田少
シ山ハ些ニシテ隣村界ニアリ用水ハ郷内ノ溜井ヲ用ユ水損ノ患ナクマ、旱損ヲ患
フ土風他ニ異ナラストイヘ郡中邊僻ノ山村ニ比スレハ頗ル繁華ノ風アリ扱又妙
見ノ神事二月三日ヲ田植ノ祭トテソレマテハ女ノ業絹木綿ナト織ルコトヲセス往
古ヨリノ風俗ナリト云郷民農隙ノ稼ニハ諸商賈諸職ヲ營トミ女ハ絹横麻或ハ木綿
縞ナト織出セリ名産ニハ即チ生絹横麻黒豆干柿或ハ荒川鼻反リノ鮎ナト出セリ
古ヨリ市立アリテ毎月一六ノ日ヲ常トス或ハ十一月朔日ヨリ六日マテハ妙見ノ祭
ニテ珠ニ賑ハシク近里遠境ヨリモ群集セリ年分交易スルモノニハ第一ニ生絹横麻
等ヲ始メ庶物トモニ其用タラサルハ少ナシ街道ハ坤ノ方下影森久那兩村ヲ經テ上
田野村ヘ一里長ノ方大野原村ヘ一里ノ繼場ナリ奥秩父ヨリ江戸ヘノ往來ミナコ、
ニヨレリ路幅凡六尺又一條ノ通路東ノ方横瀨村ヨリ來リ乾ノ方荒川筋武鼻ノ渡ニ
カ、リ寺尾村ニ達ス郷中ニカ、ルコト一里ハカリ路幅五尺餘

高札場 下町
陣屋 上町東裏

小名 上町 中町 下町 社領以上大宮郷往來ノ町場ニテ
往來ニ 中村 和名抄ニ載スル所ノ中村ナ
阿保 大畑 櫻木 旗下 柳鳥 神門 日野田 野坂 熊木 上官地 中宮
地 下官地 坂氷 上ノ臺

○武甲山 當郷ノ南ニ當リ當郷及ヒ横瀨村上下影森浦山上下
來リ一里六町ヲ經テ東北ノ方大野原寺尾兩
村ノ界ニ達ス川幅凡二町水流幅凡三十間
○河岸 荒川東縁ノ内ナリ安永年中平
鼻ヲカサトイヘリ ○渡船場 二ヶ所 共ニ荒川通リニテ三月頃マテ一ハ武
橋ノ餘ハ假 ○武ノ鼻橋 荒川ノ渡リニテ大宮郷寺尾村兩
橋ナリ長サ八 ○柿澤橋 長サ六間幅二間柿澤ニ架セリ此外郷中ニ架セ
間幅二間半 ○柳澤橋 長サ六間幅十八ヶ所アリ小ナルカニハ零セリ ○大塚 郷ノ東
ニテ所 共ニ荒川通リニテ其一ハ武ノ鼻ニテ高サ五丈ハ ○清水 九ヶ所 一ハ郷
武甲山ノ下谷間ノ方中村下野田龍ノ方七ヶ所在リハ妙見社ノ大井ノ井戸近
方金室田中ノ宮地ノ所ニテ井 ○用水 堀廿四ヶ所 尺ハカリモ幅一尺五寸位ニテ
一ハ長ノ方中宮地ノ所ニテ井 ○用水 堀廿四ヶ所 尺ハカリモ幅一尺五寸位ニテ
ノ尻堀中ノ下堀木前堀柳ノ方堀阿保大堀山王堀大畑前堀金室田中堀金室田中堀
堀尻堀藤井堀上堀新井堀澤堀阿保大堀山王堀大畑前堀金室田中堀金室田中堀
堀井上下堀東方ニ新井堀澤堀阿保大堀山王堀大畑前堀金室田中堀金室田中堀
水引堀東方ニ新井堀澤堀阿保大堀山王堀大畑前堀金室田中堀金室田中堀

新編武蔵風土記

大宮町之圖



ノ野ノ神國社馬郡花田同ヒケレハ里老登ア上
 キリ秩父ノ居ヲ移セ又長文下國ノ勸請スルハ
 當地ノ勸請所ノ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 轉セテ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 イ再ヒ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 常ニ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 郎モ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 カハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 家ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 中ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 六ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 同ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 又ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 見テ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 家ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 任セテ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 社ニテ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 ルノ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 リテ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 コレ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 ヲテ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 今ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ
 八ハ其後見テ彼國ノ勸請スルハ

東村ノ雨池堀同 越田堀同 金室堀北村ノ馬捨場一ヶ所名峯小
 妙見社下町續コアリ當社ハ延喜式神名帳ニ載ル本郡二座ノ一秩父社ナリ
 實モ大己貴尊トモ云又當社ハ正徳二年ノ御宇明起ハ六年丙寅
 和國三輪大明神ヲ寫命定賜國遣拜祠大位ヲ命據レハ崇神ノ瑞朝御ヲ世置玉思
 金命十孫知々夫彦命定賜國遣拜祠大位ヲ命據レハ崇神ノ瑞朝御ヲ世置玉思
 後年知々夫彦命定賜國遣拜祠大位ヲ命據レハ崇神ノ瑞朝御ヲ世置玉思
 云ハ勸請ノ據ヤ詳カレ又當今妙見社ト名號スルハ本郡ノ内ニ舊號ハ辰見
 社ハ勸請ノ據ヤ詳カレ又當今妙見社ト名號スルハ本郡ノ内ニ舊號ハ辰見
 父神正五位上同十三代寶曆十一月十日壬午七月廿四日戊子慶二年國正五位下勸請
 知位下五位上同十三代寶曆十一月十日壬午七月廿四日戊子慶二年國正五位下勸請
 燒亡玉ヒラ神體白幣ヲ置テ社傳云古ノ名ハ末社ト稱セ七十五宇建タモ當時ノ兵亂ノ爲事
 三ハ新年ノ祀リ八月廿三日御祭祭十一日三葉系譜ニ據リ天慶年中平高望ノ
 ト男村岡ハ五郎實常陸ノ國香退野國染谷川ノ邊ニテ故其文里老ヲ招テ此邊ニ靈驗
 五男村岡ハ五郎實常陸ノ國香退野國染谷川ノ邊ニテ故其文里老ヲ招テ此邊ニ靈驗

木多ノ繁茂シ古社ノ様態ヒ知ラレテ唯一神道吉田家ノ配下ニテ國本社南向
田筑前ト云社人宮前丹波同主稅權代丹後橋塚淡路ナト稱セル者アリ
七尺餘コ一丈九尺餘高二丈七尺八寸前コ幣殿アリ一丈二尺コ一丈八尺
高一丈八尺五寸拜殿三丈六尺コ一丈八尺餘高二丈三尺餘唐破風作ナリ鳥居
ヲ造ル南向柱間二丈拜殿距ルコト四十三間餘此間切石ヲ敷ケリ社地ニハ拾杉生
茂リ又大榎ナト若干株アリ此鳥居内コアル未社下ニルス當社棟札左ノ如ク

表

鹿立願主河田備前守 材木奉行 里崎隼八佐
町太郎新井三郎左衛門尉 井河田五郎左衛門尉
同河野國書助 阿佐美庄左衛門尉
檜皮奉行

合奉造立武州秩父郡武光名大官妙見大菩薩御社檀一宇檜皮葺成就畢

聖乘天中天 大旦那東國主正二位源朝臣家康 檜皮葺 甲州住 水上五郎左衛門尉
仁皇百十世天正帝朝 造宮發起大旦那都筑右衛門尉吉長 齋藤 藤七郎 鍛冶新五郎 井太郎左衛門尉
一天國務卿白右大臣 神主園田刑部左衛門尉秀滿 齋藤 藤七郎 鍛冶新五郎 井太郎左衛門尉

大工甲州住 齋藤 藤七郎 鍛冶新五郎 井太郎左衛門尉
同旦那當代官成瀬吉右衛門尉 市河三郎右衛門尉

墓

右當社開基者仁王三十代 欽明天皇御宇明要六年丙寅奉祝以而來至今天正廿年壬辰一千
百四十六年也
近來仁王九十二代 花園院朝延慶二年、〇造營、元龜元年、〇遇放火爰有願住天正元年
、雖致鹿建修造不成就今有大願主都筑右近右衛門尉吉長信必堅固而造營既七八九三ヶ月
成就云云〇當初明要六年開基以來天正貳拾年壬辰迄一千百四十六年也
御本事 藥師如來 脇持多門天座像一尊者甚秘故不顯之
同御遷宮同年九月廿三日庚辰刻 造營之作事
番匠暇 五百十五人
檜皮葺暇 二百廿一人
鍛冶暇 五十八人

〇東照宮御社本社東南〇知々夫彦社〇天照太神社〇日御崎社〇豐受太神社〇七

十五末社本社ノ後コヨリ少シ左右ヘ折 片倉明神社 由留伎明神社 伊雜波明

神社 羽野明神社 阿野權現社 多戸明神社 中原明神社 多賀明神社 枚岡

明神社 大鳥明神社 住吉明神社 敢國明神社 都波岐明神社 伊射波明神社

熱田明神社 事麻知明神社 淺間明神社 三島明神社 寒川明神社 洲崎明

神社 玉前明神社 香取大神宮 鹿島大神宮 南宮明神社 水無明神社 諏訪

明神社 拔鉢明神社 二荒山明神社 都々古和氣明神社 大物忌明神社 遠敷

明神社 氣比明神社 白山明神社 氣多明神社 伊夜彦明神社 渡津明神社

天神地祇社 出雲明神社 籠守明神社 宇倍明神社 倭文明神社 物部明神社

由良姫明神社 仲山明神社 吉備明神社 嚴島明神社 玉裡明神社 日前明

神社 大藤彦明神社 田村明神社 都佐明神社 筥崎明神社 高良玉垂明神社

西寒田明神社 淀姫明神社 阿蘇明神社 和多積明神社 松尾明神社 吉田

明神社 戸隱明神社 丹生明神社 貴布禰明神社 廣瀨明神社 龍田明神社

正八幡宮 粟島明神社 思智明神社 斯香明神社 熊野權現社 水尾明神社

白鬚明神社 御崎明神社 石出明神社 賀茂明神社 許波明神社 神樂殿 御

供所 手水石 七ツ井 本社ヨリ西北ノ間ニ其數七ツ往々モアリ里民常用トス
鐵燈籠二基 石燈籠八基 雨池 或ハ尼ケ池ニ書セリ本社ノ東ニ雨池ニ書セリ
今ハ水溜ヲ畑トナシ拜來所トナリテ人々拜テ祭ルト云フヨリ地名トナル 大戻
橋ヨリ大野原村ニ往來ノ小堀ニ架セリ名義詳ナラト云フヨリ地名トナル 大戻
ハ渡ラヌコト 神主園田筑前ノ家ニ傳フニ和二年十二月十日告文數通アリ其重一御造營時
ノ申狀具書等次第武藏國中村彌次郎丹治行卿謹言上欲早任先例於公文所被經
涉ヲ有御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
營番匠作料旨被仰下事副進一卷代々御勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
木者爲御代々御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
下經御沙汰有御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
被仰出者自公方直被御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
書國寺社等公方直被御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
代吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
行令造舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
之旨令燒失申仍案間方々御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
汰之旨令燒失申仍案間方々御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
右閣御沙汰有御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
速御沙汰有御吹舉子公成賜御教書秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
御遷宮具物等秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
沙汰宛給之仍去年延慶二年十月廿一日御假具注之時雖擬合言上此由仍及火急先
行物等之御遷宮具物等秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
具物等之御遷宮具物等秩父郡勘書并御牧馬等可下行當郡大菩薩宮被造
足產北ウラコトノ御食津神事代八座相殿大宮賣神御先例爲給之言上御假具注之時雖擬合言上此由仍及火急先
月十五日御坐像束帶コヲ御長一尺八分 別當今官坊山修驗聖護院直末ナリ開山長

廿八日ナリ當宮社再建ハ文總元年八月ニ成就シテ今宮八丈現祭神ハ大宮附
神建神籬社號今宮其勸請八座委儀如大內御巫祭神天正十九年十月ノ御朱印ナリ
ル木ノ御坐像束帶コヲ御長一尺八分 別當今官坊山修驗聖護院直末ナリ開山長
岳永觀二年四月十五日御坐像束帶コヲ御長一尺八分 別當今官坊山修驗聖護院直末ナリ開山長
十二月廿二日除地水田十二步陸田 〇山王社 除地六步 〇丹生社 除地二畝 〇稻荷社 除地四畝
天神社 除地二畝 〇天神社 除地四畝 〇諏訪社 〇山王社 鄉民持 〇見目社 〇愛宕社 〇諏
訪社 〇山神社 〇熊野社 宗福寺持 〇巨ノ神社 鄉民持 〇稻荷社 〇山神社 〇諏訪社 〇丹生
社 〇諏訪社 〇赤城社 〇天神社 〇第六天社 〇山神社 鄉民持 〇羽黑社 鄉民持 〇諏訪社 〇
稻荷社 〇愛宕社 野坂寺持 〇山神社 鄉民持 〇庚申社 〇諏訪社 〇山神社 鄉民持 〇道祖神社
〇秋葉社 鄉民持 〇氷川社 〇稻荷社 〇山神社 〇天神社 〇稻荷社 〇山神社 〇天神社
〇稻荷社 〇稻荷社 〇三島社 〇稻荷社 〇三島社 園田筑前持 〇山神社 鄉民持 〇諏訪社 〇稻荷社
〇稻荷社 〇山王社 〇山神社 〇三島社 〇天神社
十一番觀音 秩父卅四番札所ノ内ナリ坂水ニアリ堂ハ南向三間四面觀音木立像長
玉ヲ折カラ此地ニ草廬ヲ結ヒ寓居セシ時或夜十一面觀音ノ安座ニ現シタマフヲ
伏シ拜ミ不思議ノ感應ヲ餘リ率爾ニ摸刻シ壇ヲ設ケテ安置スニ現シタマフヲ
巖今現ニ當山ノ頂ニ觀音ニ當山巡禮ノ詠歌ニ曰罪ノ各モキヘト天所ノ木立像アリ長
ハ夕日輝ク前立ノ觀音ニ尺三寸四分弘法大師ノ作左右ニ四天所ノ木立像アリ長

林山ト號ス曹洞宗奥州江刺郡黒石村正法寺末ナリ天正十九年十石ノ御朱印ヲ入
マフ本尊釋迦彌勒阿彌陀ヲ安メ開山天光良産禪師明徳二年ニ此寺ヲ創建セリ入
寂ノ年月ハ詳ナクスコノ寺ニ門前百
姓四軒末寺三十六椽家三百餘アリ
惣門 樓門 羅漢ニ安ス 回廊ニ連テテ都
間餘一 本堂七間半 庫裡 方丈 書院 開山堂 禪堂 衆寮 鐘樓堂作形

妙見 白山 稻荷 以上三社合殿コ
秋葉社 辨天社 天神社 山神社 觀音堂
石室 大般若經ノ如ク寫シテ納ル所ナリ寺後ノ山下ニ巨岩ヲ
ナレハ分ルハ下影森村分コアリトモ當郷ニ屬ス其故ハ上下影森共ニ元大宮ノ分郷
云フ大聖山ト號ス臨濟宗相州鎌倉建長寺末本尊釋迦ヲ安メ開山香庵和尙應永十
五年入寂月ト號ス臨濟宗相州鎌倉建長寺末本尊釋迦ヲ安メ開山香庵和尙應永十
四町四十間南北四町門前百姓三戸末刹九ヶ寺 門南 本堂 半九間半 庫裡 間
十 地藏院 近戸ニアリ本願山ト號ス臨濟宗末本尊釋迦ヲ安メ開山香庵和尙應永十
間 二 東林山ト號ス曹洞宗内廣見寺末本尊釋迦ヲ安メ開山香庵和尙應永十
寺 二 世興雄正顛創建セリ即チコレ開山トス元龜三年五月廿二日寂ス除地一段六見
步 少林寺 達磨開山金仙寺二世清叔寂年ヲ傳ヘス除地四畝四步 宗圓寺 中町
寸五分春光臺山無量院ト號ス淨土宗同州足立郡勝巖寺末本尊阿彌陀木立像ニ尺三
境內二段餘年貢地ナリ 宗福寺 阿保ニアリ萬松山ト號ス曹洞宗内廣見寺末
寂 福昌寺 柳田ニアリ柳龍山ト號ス新義眞言宗寺 瓜龍寺 高内中山ト號ス曹洞宗
彌陀開山眞雄正顛創建セリ即チコレ開山トス元龜三年五月廿二日寂ス除地一段六見

前ニ同シ本尊 泉藏院 妙見社願ノ内ニアリ新光山ト號ス新義眞言宗小 阿彌陀
阿彌陀ヲ安メ 泉藏院 鹿野村十輪寺末今ハ廢寺トナリテ事蹟詳ナラス 阿彌陀
堂 燈明免二段一畝 阿彌陀堂 燈明免二畝十 地藏堂 燈明免廿八 虚空藏堂 燈明
民持 阿彌陀堂 燈明免七畝 阿彌陀堂 下同 地藏堂 觀音堂 藥師堂 藥師
堂 西光 不動堂 下同 藥師堂 地藏堂 阿彌陀堂 龍石 地藏堂 下同 聖塚
姥堂 大光院 字久保平ニアリ本山修驗今宮坊門徒ニテ山號寺號ナシ下ノ二院
教學院 上町ニアリ本尊不動ヲ安メ開山トス 憲學院 字下平ニアリ本尊不動ヲ
寛永四年十二月 化ス日ヲ關シ
長壽者 郷民萬右衛門カ母ナリ文政三年庚辰領主阿部鐵九ヨリ老養 長壽者
某 郷民助八カ母ニテ今茲癸未百歳ナリ 舊家者 休左衛門 形ノ正ニテ井上トス鉢
亡ノ見エタルハ即チ此休左衛門カ祖ナリ遠祖ハ武田家ニ仕ヘシカ天正十年甲州滅
形城没落セシヨリ此郷ニ 居住スト云家藏左ニ載ス

信州戸石合戰先鋒爲功兜首討捕之條神妙機令感入候口忍儀 追而可沙汰者也
天文十五年三月十八日 三原午之介 晴信花押

遠州二俣城攻割無比類働令感悅畢仍而忍分甲州小石和郷之内貳百三十貫所宛行
不可有相違速領知彌守武用代旨趣軍役再忠信之旨被仰出者也下知仍而如件

元龜三年申三月日 山縣三郎兵衛尉奉之
今度三原之他家へ免許之家之紋所印之者也

三月日 晴信花押 三原本家方へ

急度申越候仍其郡之事各致談合忠節肝要候走廻次第知行之義者可扶助委細へ用
土南圖書助可申候恐々謹言

正月廿九日 乙千代花押 秩父衆中

甲州下山郷三百七拾夕並夫丸五人比官等之事右爲本領之由言上間所宛行不可有
相違彌守可抽忠信如件

天正十八年午八月三日 本多彌八郎奉之 佐原午之介為

新編武藏風土記稿卷之二百五十五終

105
30

105

30

